

## IV 今後に向けて

この岡山市版オレンジプラン（改訂版）は、認知症の人とその家族が認知症に理解のある地域で安心して生活できる仕組みづくりに向けての指針としてまとめたものです。お互いが顔見知りで声をかけやすい地域づくりが理想です。

今後、本市の総合計画はもとより、地域共生社会推進計画と整合性を図りながら、この指針に沿って、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画<sup>※28</sup>の中で、認知症高齢者やその家族への支援等について具体的な事業、数値目標、スケジュール等の検討を進めることにしています。

なお、本指針は、当面の基本的方向性としてまとめたものであり、新たな課題に適切に対応していくため、事業の評価と検証、国の動向や他都市の先進的な取り組み等の情報を通じて、より良い内容へと発展させるための検討を継続して行うことにしています。

### 《岡山市版オレンジプランの改訂にあたって》

年が明けて 2018 年が始まりました。

今、日本では高齢化が急速に進んでいます。100 歳以上の高齢者は 6 万人を越え、90 歳以上では 200 万人を超えたという新聞記事を昨年見ました。ある書籍では 1970 年生まれの女性の 2 人に 1 人は 90 歳を超えて生きられるであろうと書かれていました。

長生きできるということは喜ばしいことですが、病気になってしまうとそれは一変します。高齢化に伴い増加傾向にある病気の一つが認知症で、認知症を恐れている人も多いと聞いています。80 歳代での認知症 3～4 人に 1 人、90 歳代前半では 2 人に 1 人、90 歳代後半では 80% の人が認知症という情報もあります。

認知症では脳の働きの慢性的低下が見られます。老化により心臓でも腎臓でもすべての臓器の働きは悪くなり、心不全や腎不全など〇〇不全となります。脳も他の臓器と同じく老化により働きは悪くなりますので、認知症には老化の影響もあります。

したがって、高齢化社会において認知症は避けられない社会問題のひとつであり、何とかしないとけないのです。

平成 24 年に厚生労働省は認知症施策推進 5 か年計画(オレンジプラン)を発表して認知症施策の方向性などを示しました。これに対応して岡山市でも岡山市版オレンジプランを平成 26 年に作成しました。

平成 27 年に厚生労働省は、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025(平成 37)年を見据え、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、新たに「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」(新オレンジプラン)を関係府省庁と共同で策定しました。岡山市では、すぐにこの新オレンジプランに対応はできていませんでしたが、この度、岡山市役所内外の英知を結集し岡山市版オレンジプランを改定することができました。

岡山市ではこのプランに基づいて岡山市における認知症施策を推進することになると思います。現在でも多くの関係者の努力により認知症対応を様々な場所で展開していますが、今後もさらにパワーアップしていくことと思います。

市民の皆様、ぜひこの岡山市版新オレンジプランを見て頂き、市民の皆様のご協力の下で、認知症に優しい岡山市を作っていきましょう。

岡山市認知症施策推進検討会座長

岡山市認知症疾患医療センター・センター長

岡山赤十字病院・精神神経科部長

中島 誠